

アフガンの子へ ランドセルを

年 組 名前

信州大付属松本中学校1年の木島蓮花さんは、使わなくなったランドセルをアフガニスタンに贈る活動を始めました。なぜ活動を始め、どんな取り組みをしているのか、記事を読んでみましょう。

①都内の公益財団法人「ジョイセフ」が進めるのは、どんなことをするプロジェクトですか。

②木島さんは、自分のランドセルを贈るだけでなく、多くの人に呼び掛けました。具体的に、どんなことをしましたか。

③木島さんは取り組みを通じて何を学び、どんなことを改めて意識しましたか。

学んだこと—

意識したこと—

④ランドセルを贈るアフガニスタンの今の様子について、調べてみましょう。

アフガンの子へ ランドセルを

信大付属松本中・木島さん 支援の輪広げる活動

「少しでも役に」手書きでチラシ

松本市の信州大付属松本中学校1年、木島蓮花さん(12)が、使わなくなったランドセルをアフガニスタンに贈る活動を始めた。この春まで6年間、大切に使ったランドセルを生かしたいと、公益財団法人の活動に協力。紛争やテロなどで十分な学校教育を受けられない児童が世界には多いことも知り、活動の輪を広げて「少しでも役に立ちたい」と願っている。

体を動かすのが好きという木島さん。同市清水小学校に通っていた時は体育の授業や休み時間の鬼ごっこが楽しかった。友人関係などに悩み、学校から足が遠のいた時期もあったが、赤いランドセルには思い出がいっぱい。カバーを付けて使っていたため目立った傷もなく、卒業後の4月、「捨てるのはもったいない」と使い道考えた。

都内の公益財団法人「ジョイセフ」が進めるプロジェクト「思い出のランドセルギフト」を知った。ランドセルや学用品を集めてアフガンの女児らに寄贈する同プロジェクトに協力したいと考え、自分のランドセルを贈るだけでなく、多くの人に呼び掛けることにした。

品を集めてアフガンの女児らに寄贈する同プロジェクトに協力したいと考え、自分のランドセルを贈るだけでなく、多くの人に呼び掛けることにした。

ジョイセフのホームページを参考に、ランドセルの送り方などを手書きしたチラシを作った。ひとり人形劇「がらくた座」を主宰する祖母の木島知草さん(68)に相談し、公演などで縁がある県内外の約150人に手紙と一緒にチラシを送ってもらった。木島さん自身も、小学校時代の友人らに協力を依頼した。

30人ほどがプロジェクトに参加したり知草さん方に寄託してくれたりしたといい、木島さんは反響の大きさに驚いた。取り組みを通じて紛争が続くアフガンの現状の一端も学び、日本国内でも新型コロナウイルス下で多くの人が困難を抱えていることを改めて意識。「普通に生活できていることを感謝しないといけないと思うようになった」と話す。

今後、さらに呼び掛けを続け、ランドセルなどは夏ごろをめどに、まとめてジョイセフに送ることにしている。



6年間使ったランドセルを持つ木島さん。集まった学用品もアフガンに送る

アフガンの子へ ランドセルを

解答例

年 組 名前

信州大付属松本中学校1年の木島蓮花さんは、使わなくなったランドセルをアフガニスタンに贈る活動を始めました。なぜ活動を始め、どんな取り組みをしているのか、記事を読んでみましょう。

①都内の公益財団法人「ジョイセフ」が進めるのは、どんなことをするプロジェクトですか。

【解答】 ランドセルや学用品を集めてアフガンの女兒らに寄贈するプロジェクト

②木島さんは、自分のランドセルを贈るだけでなく、多くの人に呼び掛けました。具体的に、どんなことをしましたか。

【解答】 〔例〕ジョイセフのホームページを参考に、ランドセルの送り方などを手書きしたチラシを作った

祖母の木島知草さんに相談し、県内外の約150人に手紙と一緒にチラシを送ってもらった

小学校時代の友人らに協力を依頼した

③木島さんは取り組みを通じて何を学び、どんなことを改めて意識しましたか。

学んだこと— 紛争が続くアフガンの現状の一端

意識したこと— 日本国内でも新型コロナ下で多くの人が困難を抱えていること

④ランドセルを贈るアフガニスタンの今の様子について、調べてみましょう。

【解答】 略